

西東京教区だより 第42号



卷頭言

伝道 ing

陣内 大蔵



「伝道集会」と銘打ったイベントに、キリスト教に縁遠い人を誘います。大概、遠慮されてしまいます。理由を知りたくて色々と話をしますと、まず「伝道」という専門用語の圧迫感を言われます。確かに一般的ではなく内部用語的。「道を伝える」という目的が見え隠れしているわけです。例えば、縁遠い宗教団体から「広宣流布の集会に来ませんか?」などと言われてもやはり気持ちは引いてしまいます。「伝道伝道!」と声高に言うことは、あくまでも内向きスローガンであることの自覚は大切です。「伝道集会」というネーミングは外から見ると距離感がある。私たちはよくこういう不器用さを露呈してしまいます。もちろん多くの信徒の方々は「ハトのように素直」でいらっしゃいます。ならば、もう少し「ヘビのように賢く」立ちまわっても良いのかもしれません。世に倣えというわけではなく、キリスト教を少し相対化して、むしろ世に謙った形でキリスト教の世界へお招きする。そんな姿勢を少し意識したほうが良いでしょう。上から目線のアピールでは、今時

なかなか人は足を運んでくれませんし、耳を傾けてはくれません。

チャーチコンサートのゲストとして教派をこえ多くの教会に招かれます。上記のことはその経験から感じてきました。しかし、招かれた教会へいきますとやはり本当に信徒お一人お一人の伝道への御尽力を目の当たりにします。職場や知人、近所の方々、全方向へ案内をされている。我に帰ると、自分自身が教会以外の世界にそうやってアピールしているか? そんな反省が浮かびます。時に内向きすぎる私達。「徴税人でも同じことをしているではないか」(マタイ5:46)。あたりまえですが、もっと外に意識を向けていきたい私たちです。もちろん内部の有機的な充実は必要です。しかし、なにか「統率」めいたものでそれこそ伝道などというものは進まないよう思います。簡単な How to ではない。そもそもが私たち一人一人の存在自身、既に「宣教的」なわけです。生きざまや選択、歩むその背中を周りは見ている、感じている。外に向かって、いうなれば自分自身が「歩く伝道

集会!」なのです。そんなふうに一人一人が「それぞれの味」を思いっきり発揮して下さって、各々のフィールドで宣教にトライしていく。その豊かで貴重な働きに対して教会が仕え、そして教区はその教会に仕え、ひいては教団はその教区に仕えるべきなのだと思います。

伝道部委員長・有馬尊義先生の前号「卷頭言」は、教区としての伝道の根本的な立ち位置を示して下さいました。各個教会の伝道の業への支援、お一人お一人の信徒伝道へ支援というものを教区が担う。フォローアップし、シェアをすることも大事でしょう。また、「教区が主体となった伝道」ということならば、向かっている方向性、具体的な業、活動活用を折りを見て共にチェックしていくということも必要だと思います。そしてその状況に応じて臨機応変に大胆に進んだり思い切って止ったり、鼓舞したり省みたりと。教会の総体としての教区であるのですから、福音宣教のためには「変化」を恐れずに歩みを進めていくべきだと思っています。在主 (東美教会牧師)

伝道のツールとしてのインターネット

教区ホームページのリニューアルが完了

教区ホームページ委員会

折原 威男

教区ホームページ委員会は2011年7月から従来のホームページの更新を行いつつ、リニューアル作業を行った。そのため委員会開催回数は、2011年度は7回、2012年度は12月までにすでに5回（3時間を超えることもしばしばあった）開催した。

教区ホームページの目的は、ホームページ規則に記載されてあるが念のため記す。

「(教区HPの目的) 第5条 教区HPは、インターネットというメディアを活用し、教区宣教活動計画の宣教の三本柱（「伝道」、「連帯」、「奉仕」）に資すること並びに教区内教会・伝道所（中略）および信徒への情報伝達と便宜の提供等を目的とする。」

従って、当委員会はこの規則に従い、リニューアルに取り組んだ。リニューアルすることを決定した理由は、インターネット環境が大きく変化し、ホームページ（ウェブサイト）が果す役割が重要になってきていると判断したからである。

では、どのような理念で具体的なリニューアル作業を行ったかを以下に記す。

(1)教区財政のことを考え、制作費用を極力少なくすることにした。そこで委員の一人が他の組織のホームページ制作を依頼したことがあり、その制作実績を把握している都内の業者に打診した。その上で、当方の条件を提示し価格交渉に臨んだ（相見積もした）。

(2)ノンクリスチヤンが教区内の各教会にアクセスしやすいようにした。教区内に転居してきた他の道府県の教員、求道者などが最寄りの教会を探しやすい工夫を考えた。そのため、教区内関係者のため

の情報は最小必要限度にした（コストダウンとなった）。初めてアクセスした人が教会検索に便利なようにGoogle mapにリンクでき、各教会へのアクセスもしやすくなった。

(3)スマートホンの普及率が拡大し、スマホでの閲覧（教会検索を含め）を想定して、スマホ対応とした。

(4)大きな更新を除き業者に依頼しないで追加・修正が可能な方式にした。そうすることによりランニングコストは低くなる。

(5)行事・会議予定はGoogle カレンダーと同様の形式のものを採用した。

最後になったが、リニューアル作業が完了できたのは前年度の委員であった山畠譲先生（現・静岡教会伝道師）がコンピュータ技術を有しており、業者との交渉が円滑に行われたことが大きかった。その功績に委員一同、心から感謝している。

（阿佐ヶ谷教員）

教会におけるSNSの活用について

大塚 忍

現在永山教会では、インターネット上でFacebookというSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を用いて教会案内等の情報発信を行っています。これまでホームページ、ブログ、ツイッターなども使ってきましたが、現在はこのサービスに落ち着いています。以前は、ホームページ作成ソフトなどを使って情報を更新していたのですが、Facebookだけでも十分情報発信を行えるのではないか、と考えるようになりました。これは一本化しています。ここで毎週定期的に更新しているのは、教会の礼拝案内と次週の集会案内（週の半ば）、教会の祈り（日曜日の朝）です。その他には、特別な集会の案内（特

別集会やバザー等）や、終了した行事の報告を行い、教会の様子を多くの方々に身近に感じていただけるようにしています。携帯電話からもすぐに、情報を更新することができるのも非常に便利です。写真などもすぐに公開することができます（写真は慎重にアップしています）。情報発信のみではなく、受け手の方々のためのコメント欄も設けられており、気軽に質問などをしていただくことができるのもメリットの一つです。多摩市に帰省していた方が、早天祈祷会の案内を見て下さり参加してくださったこと、ネット上だけで繋がってくださっていた方がバザーを訪ねてくださったこともあります。遠方の教員の方々にもすぐに情報が公開され、その時の課題を同じ時に心を合わせて祈っていただくこともあります。

非常に魅力的なサービスなのです

が、気をつけなければならないこともあります。情報の拡散が速いので、出来るだけ正確な情報の発信に気をつけなければなりません。また、情報が一方通行でないので、必要であれば返信をする必要があります。質問も公開ですが、応答も公開されていますので、丁寧に反応する必要があります。以前は、ブログや掲示板などに心ない書き込みなどが掲載されることもありましたが、Facebookは実名登録なので、そのような書き込みが少ないと安心感もあります。

教会の使命であるイエス・キリストの福音を発信すること、同時に、教会の周りに生きる方々の声を受信すること、どちらか片方のみではなく「双方向性」を大事にしながら、このツールが用いられれば宣教の働きにとって有意義なものとなるよう思います。

（永山教会牧師）

按手礼受領教師自己紹介

味わい、見よ、主の恵み深さを



更生教会
山口 紀子

この度、按手の恵みに与る事がゆるされ、心より感謝を申し上げます。

神学校を卒業して西東京教区に赴任し、准允を頂いたのが三年前。思

えばその時は教区内にほとんど知る人も無く心細く思ったものでした。

しかし手を置いて頂いたその重みに、また教区の皆さんと教会員の笑顔に触れて、三年間この教会と教区に祈られ、育てられて今日を迎える事が出来たのだと、しみじみと実感しました。

召命は、神様と私の間の目に見えない確信でしたが、按手は目に見える恵み。主なる神の恵み深さと同じ西東京教区の皆さんとの愛を味わい知

る時となりました。

これからもよきお交わりをよろしくお願い致します。

第27回教区総会（臨時）では、もうお一人、下田洋一先生（中野桃園教会）が按手礼をお受けになりました。自己紹介をお願いしましたが、着任時にお書きくださいった文章に替えていたとのお申し出がありました。第40号（2012年8月発行）をご覧ください。
(編集委員会)

第27回教区総会（臨時）報告

教区総会書記 七條 真明

第27回西東京教区総会（臨時）が、昨年11月25日（日）、吉祥寺教会を会場に行われた。

最初に開会礼拝が捧げられ、願念望常置委員（国分寺教会牧師）による説教がなされた。

その後、正議員207名中104名の出席を確認し、大村栄教区総会議長により開会が宣言され、祈祷が捧げられた。

まず、議案第1号「按手礼執行に関する件」が上程され、下田洋一教師（中野桃園教会主任）と山口紀子教師（更生教会主任）の按手礼執行の承認がなされた。続いて、議案第2号「立川からしだね伝道所開設に関する件」が上程され、七條真明教区総会書記による議案説明、大村議長による補足説明がなされた。大村議長は、1999年に西東京教区が日本基督教団の17番目の教区として設立されたこと

の中にある最大の意味は「教会を生み出すことができる」点にあることを述べ、長年の準備を経て立川にその実りが生み出されてきたことの喜びを述べた。さらに、教区開拓伝道実行委員会の道家紀一委員長より伝道所の予算に関して説明がなされた後、若干の質疑応答がなされた。

採決がなされ、賛成多数によって可決された。主任担任教師代務者となった大村議長より、開設承認に対する感謝が述べられた。

次に、議案第3号「八王子ベテル伝道所開設に関する件」が上程された、七條書記による議案説明、大村議長による補足説明がなされ、伝道所開設に至る経緯が詳しく述べられた。また、大村議長は、西東京教区が支区であった時代を含め四つの伝道所・教会を生み出してきた親教会群による協力と支援が求められる伝道所開設であることを述べた。

採決がなされ、賛成多数によって可決された。八王子ベテル伝道所の主任担任教師となった千原創牧師による挨拶がな

され、伝道所開設が承認された感謝と共に、ここに至るまでに金井直治牧師（元・八王子教会牧師）が祈りのうちに伝道を始めた40年の歴史があったこと、今回の伝道所開設にあたっては八王子教会および千原牧師が牧師として仕ってきた境南教会の理解と協力があったことが述べられた。

議案第4号「議事録確定に関する件」が可決された後、川原正言常置委員（南三鷹教会会員）による閉会祈祷がなされた。

その後、大村議長の司式により、総会において承認された2名の教師の按手礼式が執行された。按手礼式の後、下田教師・山口教師による挨拶がなされ、また中野桃園教会・更生教会それぞれの教会員の方々が感謝を述べられた。

二人の教団正教師が立てられ、また二つの新しい伝道所が教区に加えられた。その喜びと感謝のうちに総会を終えた。

（高井戸教会牧師）

東日本大震災救援募金のためのトートバッグを作ります！

震災募金のグッズとしてトートバッグ2種類を販売します。

値段は未定ですが、大1,500円程度、中1,200円程度の予定です。

Tシャツも好評の黒と紺の2種類を継続して販売します。

大人用1,500円、子供用1,000円お問い合わせは教区事務所まで。



（デザイン1）



（デザイン2）

日本基督教団 西東京教区 第28回教区総会（定期）開催のお知らせ

日 時：2013年5月26日（日）～27日（月）

場 所：国分寺教会

議 案：前年度活動報告・決算

次年度活動計画・予算

その他

詳しくは、開催14日前の公告をご覧ください。

議案の提出は教区規則第21条に則り、原則常置委員会となります。議員提案は、10名以上の賛成者の連署を添え、総会開会20日以前に、教区事務所に届くように願います。

西東京教区「祈りのカレンダー」

2013年4月28日～9月14日

西東京教区は「伝道・連帯・奉仕」(教区宣教基本方針)のもとで、「祈りのカレンダー」を作っています。教区内の教会・伝道所、関係諸団体の課題を覚える祈りの輪に加わってくださいますように。東日本大震災から2年が経ちました。教区では震災以来継続してきたボランティア派遣を今後も続けていきます。働き手が今後もおこされ、主の御心に適って事故なく続けることができるよう、ボランティア派遣の働きと働き手たちを覚えてお祈りください。

(伝道部委員長 有馬尊義)

教区の祈り

2013年

- 4月 協力伝道の支援
- 5月 教会互助の推進
- 6月 婦人・壮年・青年活動の支援
- 7月 学生・青年伝道の支援
- 8月 奉仕の情報ネットワーク作り
- 9月 高齢化・少子化問題

4月28日～5月4日 東北教区被災者支援センター・エマオ

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6
当センターのことを覚え、お祈りとお力添えでお支えいただき、ありがとうございます。

【祈りの課題】

震災から2年を迎える、状況が大きく変化していく中で、被災されたお一人お一人に寄り添う働きができますように。

5月5日～5月11日 清瀬旭ヶ丘教会

〒204-0002 清瀬市旭が丘1-278／牧師・猪野正道／創立1978年／現住陪餐30／礼拝出席22／祈祷会出席4／CS出席3／予算505万円

【祈りの課題】

礼拝出席者数30名を超える日が増えるよう教会員一人ひとりの賜物が用いられますように。また教会学校に定期的に参加する子供たちが幼稚園から導かれますように。

5月12日～18日 清瀬信愛教会

〒204-0024 清瀬市梅園2-5-15／牧師・竹前治／創立1948年／現住陪餐73／礼拝出席48／祈祷会出席6／CS出席7／予算918万円

【祈りの課題】

高齢化が進み、礼拝に出席できる方が減ってきました。礼拝に出席できない方々のケアと、新しい方々が礼拝に繋がるようお祈りください。

5月19日～25日 東京新生教会

〒203-0041 東久留米市野火止2-9-15／牧師・横山基生(主)、横山好江／創立1988年／現住陪餐31／礼拝出席29／祈祷会出席5／CS出席3／予算822万円

【祈りの課題】

地域に開かれた教会、心から主をほめたたえて主に栄光を帰す礼拝、祈りと奉仕をもって世に仕える教会、若者が集まる教会となれるように。

5月26日～6月1日 柳沢伝道所

〒202-0015 西東京市保谷町3-9-20／牧師・東栄／創立1986年／現住陪餐6／礼拝出席4／祈祷会2／予算40万円

【祈りの課題】

信徒がいつまでも礼拝を守ることが出来ますように、健康をお与えください。聖霊に満ちた福音が宣教できますように教師を強めてください。

6月2日～8日 西東京教会

〒188-0011 西東京市田無町6-7-5／牧師・加藤哲(主)、加藤基愛／創立1959年／現住陪餐24／礼拝出席24／祈祷会出席10／CS出席8／予算423万円

【祈りの課題】

小さい群れですが、足腰の強い教会になっていきたい。教会付属オルガン教室が諸教会のお役に立つように。

6月9日～15日 花小金井教会

〒187-0011 小平市鈴木町2-242-19／牧師・五十嵐成見(4月から)／創立1970年／現住陪餐62／礼拝出席28／祈祷会出席3／CS出席11／予算531万円

【祈りの課題】

半年間の無牧の時を経、新年度より主任牧師をお招きすることが出来ます。祈りを聞いてくださった主に感謝します。伝道に邁進する教会となりますように。

6月16日～22日 東村山教会

〒189-0013 東村山市栄町2-41-11／牧師・芳賀力／創立1956年／現住陪餐125／礼拝出席90／祈祷会出席9／CS出席4／予算1,325万円

【祈りの課題】

①若い方々が、主から良き進路が示され、希望を持って歩めますように。
②ご高齢の方々が、信仰を持って平安な日々を過ごせますように。

6月23日～29日 東大和教会

〒207-0014 東大和市南街2-444／牧師・春原鈴子／創立1966年／現住陪餐63／礼拝出席34／祈祷会出席22／予算506万円

【祈りの課題】

礼拝を喜び、主にささげ、喜びに満たされて、それぞれの生活の場に遣わされ、福音を証する一人一人が養われますように。平安を祈ります。

6月30日～7月6日
武藏村山伝道所

〒208-0013 武藏村山市大南3-9-5
／牧師・荻野光代／創立1976年／現住陪餐6／礼拝出席6／祈祷会出席2／予算45万円

【祈りの課題】

老病の教会員に対し、時々来会の明治学院中高生のカンフル注射。主日礼拝が常に捧げられ、地域への宣教が進展致しますようご支援をお願いします。

7月21日～27日
小金井教会

〒184-0004 小金井市本町2-10-10
／牧師・丸山和則／創立年1938／現住陪餐78／礼拝出席51／祈祷会出席12／CS出席20／予算919万円

【祈りの課題】

キリスト教会への「とびら」としての教会付属幼稚園が地域伝道のために豊かに用いられますように。そして幼稚園の営みが守られますように。

8月11日～17日
国分寺教会

〒185-0012 国分寺市本町1-6-2
／牧師・願念 望／創立1947年／現住陪餐280／礼拝出席133／祈祷会出席12／CS出席25／予算2,469万円

【祈りの課題】

①礼拝から始まる教会形成 ②青年会の継続 ③子育て世代の育成 ④教育館・牧師館改築の具体化 ⑤求道者が導かれるように

9月1日～7日
国立教会

〒185-0004 国立市中1-7-14
／牧師・宍戸 達(主)、宍戸好子 伝道師・宮寄 薫／創立1946年／現住陪餐330／礼拝出席188／祈祷会出席22／CS26／予算2,103万円

【祈りの課題】

幼稚会員が信仰告白に至るまでの過程をていねいに導き、高齢の会員に教会の様子を絶えず知らせて、いつも教会が一つの交わりであるように。

7月7日～13日
石岡記念教会

〒187-0043 小平市学園東町1-2-41
／牧師・長谷川洋介／創立1948年／現住陪餐80／礼拝出席64／祈祷会出席7／CS出席9／予算1,067万円

【祈りの課題】

一人一人が主の証人になれるようになります。新しく来会される方々が主に出会えるように。教会付属幼稚園が主に託された業ができるように。

7月28日～8月3日
小金井緑町教会

〒184-0003 小金井市緑町4-16-33
／牧師・山畠 謙／創立年1965年／現住陪餐52／礼拝出席50／祈祷会出席8／CS出席13／予算997万円

【祈りの課題】

小金井の地にあって灯台のように福音の光を輝かせ、一人でも多くの方が救いに与り、喜びを分かち合うことができますように。

8月18日～24日
国分寺南教会

〒185-0022 国分寺市東元町3-4-18
／牧師・深山 祐(主)、深山正子／創立1962年／現住陪餐28／礼拝出席25／祈祷会出席10／CS出席2／予算424万円

【祈りの課題】

①主日礼拝・夕礼拝、火曜・木曜祈祷会を通して、聖靈なる神によって教会がつくられていきますように。②子ども、青年への伝道。

9月8日～14日
立川教会

〒190-0022 立川市錦町3-11-9
／牧師・梁 在哲／創立1951年／現住陪餐35／礼拝出席25／祈祷会出席4／CS6／予算797万円

【祈りの課題】

教会創立62周年を迎え、地域で「平和を保ち、主を畏れ、聖靈の慰めを受け、基礎が固まって発展する教会」でありたいと祈っています。

7月14～20日
小平学園教会

〒187-0045 小平市学園西町2-25-20
／牧師・稻垣裕一(4月から)
／創立1957年／現住陪餐49／礼拝出席30／祈祷会出席2／CS出席2／予算710万円

【祈りの課題】

新しい牧師のもと、主のお導きにより、新しい歩みが祝されますように。

8月4日～10日
小金井西ノ台教会

〒184-0004 小金井市本町4-7-3
／牧師・青戸宏史／創立1956年／現住陪餐27／礼拝出席24／祈祷会出席7／CS出席8／予算571万円

【祈りの課題】

「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」と主イエスが言われた「真の教会形成」。「日曜学校の充実と発展」。被災教会の復興への願い。

8月25日～31日
西国分寺教会

〒185-0032 国分寺市日吉町4-17-44
／牧師・北原葉子／創立1976年
／現住陪餐36／礼拝出席20／祈祷会出席4／CS9／予算675万円

【祈りの課題】

①今年度教会標語「主よ、お語りください。僕は聞きます。」に基づき、み言葉に聞き従うことによる交わりの深化。②地域への福音伝道の一層の進展。



想いを紡いだ、 SCFでのクリスマス

桑原 崇

クリスマス会の1ヵ月ほど前から、クリスマス委員として30人余りの人たちが集まり、当日に向けて準備をしてきました。私もクリスマス委員として参加しました。今年は日本にとっても若者にとっても明るい話題がなかったせいか、まずテーマを決めるのに苦労しました。最終的には「絆」への反省を込め、“紡”という人ととの本当のつながりを作っていくテーマに決まりました。また委員会では当日のプログラムや食事、広報、装飾、礼拝などについて話し合いや作業が行われるのですが、やらなければならぬことが沢山あり、また初めて委員を務める人も多くいたので、これもなかなか進みませんでした。クリスマス会はSCFでも最も大きなイベントですが、久しぶりに参加する人や初めて来る人、またキリスト教にあまり馴染みのない人にとっては、SCFに足を運ぶだけでもとても勇気がいることだと思います。そのような人々に来てもらうにはどうすれば良いのか、また来てくれた人に喜んでもらうには、どう歓迎し、楽しんでもらえば良いのか、意見の対立もありつつ話し合いは夜遅くまで続けられました。どうしても意見がまとまらず臨時に集会を設けることもあります。ぎりぎりまで準備に追われました。それでも委員全体にクリスマス会をより良いものにしようという気持ちがあったので、充実した時間をもつことができたとともに、良い準備ができたと思います。

12月1日の当日は準備の甲斐もあり100人を超える仲間が参加してくれました。初めてSCFに来てくれた人の中にも笑顔を見ることができました。来てくれた人が堅くならずに、その場の空気に溶け込めるような雰囲気こそがSCFの良いところであり大事にしていることだと思います。参加してくれた人々を受け入れる準備ができていたことはよかったです。礼拝ではキリスト教に馴染みのない方も一緒に参加し、静かな時間をもつことができました。

今回参加してくれた何人かの人から「ありがとうございました」「楽しかったです」という言葉をもらったときは、真剣に準備をしてきて良かったと思いました。クリスマス委員としてこの会に携

われたことを誇りに思いました。これからもSCFがすべての人にとって親しみやすく、自分の居場所だと感じられる場であればと思います。

(原町田教会、SCF=学生キリスト教友愛会クリスマス委員)



教育部中高生クリスマス会

教育部委員長 吉岡 喜人

12月26日(水)に教育部主催の中高生クリスマス会が行われました。教育部主催といつても、企画から当日の係まで、ほとんど全てを高校生委員が担ってくれました。会場については、高校生委員の一人である阿佐谷東教会の坂下希さんから、是非阿佐谷東教会でやりたいとの希望が出され、すぐに委員全員が賛成して決まりました。ご存じのように阿佐谷東教会は昨年新しい会堂を建てたばかりなので、その披露ということもありました。

当日は、阿佐ヶ谷駅に迎えに出る者、会場のセッティングをする者など高校生委員が手分けをして準備を行い、中高生を迎えるました。クリスマス会は午後3時から始まりました。まずはゲームです。中高生会ではゲームをとても大切にしています。それは、ゲームによって集まった人たちが早く親しくなるからです。春や夏のキャンプの時も同じですが、初めて参加する人はかなり緊張しています。どんな会なのか。誰がいるのが。親しくなるか。などなど期待と不安をもって来ます。そこでゲームの登場です。この日に高校生委員が用意してくれていたゲームは、ジェスチャーゲームでした。2チームに分かれ、各チームが1列に並んで全員後ろに向きます。一方のチームの先頭の人に題が口頭で伝えられ、その題をジェスチャーで次の人に伝えるのです。伝えられた人はその次の人にジェスチャーで伝え、という具合に順番に伝えていきます。もう一つのチームはそれを見学するのですが、なかなか

思うように題が伝えられず、なんとか伝えようとする様を見て楽しむというゲームです。ジェスチャーゲームが終わると、皆すっかり打ち解けていました。他にもたくさんゲームを楽しみ、お茶会、プレゼントの交換をし、最後に礼拝をして会を終えました。会場を提供してくださった阿佐谷東教会牧師の坂下道朗先生からクリスマス・メッセージをいただき、温かい心を持って家路についたことでしょう。参加者は中高生8名、大人11名、計19名でした。

(南三鷹教会牧師)



青年委員会クリスマス

青年委員長 藤々木 健

<12月26日クリスマス会の報告>

12月26日SCFにて、クリスマス会を行いました。私達、新委員にとって初めてのクリスマス会だったため、少々準備不足だった点や不慣れな点がありました。さらには、当初の予定では、委員が4人来ることになっていたのですが、当日に委員が2人も休む…なんてアクシデントもありました。しかし、SCFの方はもちろん、なんと初参加の方にまで手伝っていただき、無事、終えることができました。感謝です。クリスマス会では、GD(グループディスカッション)を中心とした、私自身、経験したことのないような「真面目な」クリスマスとなりました。

さて、当日の様子は写真のような感じで、和気藹々と行われました。

初めてのクリスマス会ということもあり、はじめは参加者が来るのか?と不安を感じていた委員でしたが、蓋を開けてみれば、大成功、となりました。しかしながら、委員の連携がうまくいかなかつたなど、次回につながる反省点も見受けられました。

青年が教会になかなか集まらないといわれる今、これだけの人数がそろい、楽しいクリスマス会を行えたことを、感謝します。

<青年会の今後>

今後、青年会では、さらに充実した活動のため、より多くの青年が参加してくれるような環境を作っていくます。現在の青年会は、残念ながら大人数ではありません。もちろん、人が多いだけがいい環境だ、と考えているわけではありませんが、人が集まってくれなければ、クリスマス会のような企画ができないことも確かです。そこで、私達青年会は、企画(クリスマス会、例会、など)と並行して、少しでもこの青年会に興味を持つてくれるようなことも行っていく予定です。

もしも、偶然これを読んでいる青年がいらっしゃいましたら、是非気軽に声をかけてみてください。青年会ではあちらこちらの教会に、案内を出しています。所属している教会の牧師先生に聞いてみるのもいいかもしれません。青年会は、あなたの参加を心待ちにしています。

(南三鷹教会)



教区世界宣教協力委員会主催 研修会報告

世界宣教協力委員会委員長 吉岡 光人

「在日・滞日外国人被災者支援に関して」
2013年1月19日（土）吉祥寺教会において、「在日・滞日外国人被災者支援に関して」というテーマで研修会が持たれました。「在日大韓基督教会・在日韓国人問題研究所（RAIK）」所長／「外国人被災者センター」所長の佐藤信行さんから、東北在住の外国人被災者の実体とRAIKの取り組みについての報告をお聞きしました。準備してくださった、行政による統計やRAIK独自の調査活動などをまとめた綿密な資料を基に、マスコミを通してはなかなか伝わってこないような実体をお話くださいました。1990年以降、岩手・宮城・福島の東北三県においては、男性に対して女性の人口の割合が増加していることが統計上顕著で、その理由は、その頃から日本人男性と結婚して住むよ

うになった中国・韓国・フィリピンなどの女性が増えたことによるのだそうです。地震直後の困難は言うに及ばずですが、その後の避難所や仮設住宅の生活においても家庭内や近所の人たちとの人間関係での苦悩、経済的不安、子育ての不安なども少なくないとのことでした。

こうした在日・滞日外国人被災者に対するRAIKが行っている支援活動は、こうした方々の住んでいるところを探し、各家庭を個別に訪問し、困っていることに関して相談にのり、必要に応じて行政につなげることや、弁護士紹介など法的サポートをすることなど多岐にわたっています。一口に外国人と言っても文化的背景や言語能力の違いもあり、それぞれの求めに応じて適切な援助を行うことはかなりの困難を伴うとのことです。佐藤さんの講演の資料は「依頼者一人一人との継続的な面接と丁寧な相談・助言活動が必要であり、定期的な巡回訪問を私たちは始めた」という文でしめくられています。イエス・キリストが、病んだ人々や助けを必要としている人々の住む町や村を訪ね歩かれたように、RAIKの支援活動も一人一人のところに訪ね歩くという方法をとっているのです。こうした調査と支援活動のために、日本基督教団の救援募金からの援助もあったそうですが、私たち西東京教区も、外国人被災者の方々のこと、そしてRAIKの働きを祈りに覚えて、協力して行きたいと思いました。

(吉祥寺教会牧師)



第4回教区音楽祭 「講演と讃美の集い」

壮年委員長 玉澤 武之

第4回教区音楽祭は、2013年2月16日（土）午後1時から阿佐ヶ谷教会で開催された。

第1部は、新潟大学教育学部教授で日本讃美歌学会副会長の横坂康彦先生を招いて、「現代に見る（聖書の歌）の多様性」～リ・テリングを中心に～と題する講演

をいただいた。

アイオナ信仰共同体の讃美歌「アブラハムよ」は、アブラハム、モーセ、マリア、マタイなど神に招かれた生身の人間のとまどい、はにかみ、苦悩、恐れのなかで神の招きを受け入れる歌である。20世紀に入ると、イギリスではキリスト教教育が学校や家庭で充分でなく、宗教改革以来の伝統的な讃美歌や詩編歌では子供たちに理解されなくなった。そこでキリスト教教育上での「聖書を語り直す讃美歌・リ・テリング」をつくる運動が英語圏で展開され、多彩な讃美歌作家を輩出し、多数の讃美歌が生まれた。その代表がシドニー・カーターで、「天国の鳥」では、繋ぎ止められずに自由に飛ぶ鳥を探す旅を通して自己変革を恐れない自由を。「金曜日の朝」は、キリストと共に処刑される罪人が「大工よ処刑されるのは俺やお前じゃねえ、神なのだ」と歌う。その他にも、「神のひとり子が死んだ時」、「エリザベスの冬」、「香油の価値を数えない女」、「ペトロが誰にも言わないこと」など、聖書のテーマを自由に読み直し、主人公や立場を変えて歌う優れた讃美歌がいくつか紹介された。

第2部は賛美の集いで、12教会、16団体の聖歌隊が参加した。今回は、新生教会が新たに参加した。各教会の聖歌隊は、それぞれ教会の伝統や自分たちの個性を生かした演目を持ってきており、境南教会のトーンチャイム、狛江教会のゴスペルクワイアが、野方町教会は二胡を用いた演奏を、阿佐ヶ谷教会は小山章三先生の自作の讃美歌を演奏した。ヴァイオリン、ギターなどの楽器を用いるなど演奏も多彩になった。原町田教会ジュニアクワイアは4回連続で演奏を行い、桜美林大学クワイアは昨年に続き出演した。讃美歌を通しての教区内教会員の交流の場になっている。参加者は349名であった。

この日の献金は、「にじのいえ信愛荘」と「教団東日本震災救援募金」に捧げられた。

(阿佐ヶ谷教会員)



教区が主体になった開拓伝道によって「立川からしだね伝道所」が開設されました。開設式で主任担任教師代務者に就任された大村栄先生の説教要旨と式次第、写真を掲載します。(編集委員会)

説教「からしだねの信仰」より

大村 栄

「からしだね」はとても小さい種だ。しかし「成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」。現在は小さくても失望する必要はない。むしろ将来に約束された偉大さから、現在を見よう。

ローマ書8:24~25「見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。」

忍耐の根元は、目には見える現在の保証ではなく、それよりもっと確かな、必ず神の支配が実現すること。そういう未来への信頼である。今日開設式を迎えたからしだね伝道所は、そういう未来の希望をさししめす神の器、信仰の灯台でありたいと願う。

3人の博士が星に導かれてエルサレムに来た時、ヘロデ王は不安を隠しながら法律学者たちに調べさせると、彼らはこう告げた。「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしるしています、『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう』」(マタイ2:5~6)。

これは旧約ミカ書5:1の引用だが、ミカ書自体は「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者」と語っている。だがマタイは、そこは神の子がお生まれになる町だから、「決して最も小さいものではない」と言いたくなつたのだろう。しかしキリストが生まれたのは立派な大きな町ではなく、あくまで「いと小さき者」と呼ばれる町だった。

私たちの群は「いと小さき者」でいい。しかしここにキリストがおいでになることによって、小さなからしだねが「空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」ような、偉大なる出来事が起こる場とされていくのである。

行事案内

◆高校生春期キャンプ(教育部主催)

日程：3月25日(月)～27日(水)
場所：SCF那須セミナーハウスにて
問い合わせ：吉岡喜人牧師(南三鷹教会)
TEL 0422-46-4334
◆エキュメニカル・フェローシップ・ミーティング(世界宣教協力委員会主催)
日時：4月5日(金)18時
場所：吉祥寺教会
問い合わせ：吉岡光人牧師(吉祥寺教会)
TEL 0422-22-4978

◆2013年春季墓前礼拝

日時：4月14日(日)15時～16時
場所：「日本基督教団 東京教区・西東京教区 基督者之墓」(小平靈園)
司式：森田好和牧師(成瀬が丘教会)
説教：真壁 嶽牧師(相愛教会)
奏楽：野口牧子さん(成瀬が丘教会員)
問い合わせ：東京教区事務所
TEL 03-3203-4270

◆キリスト者として憲法を考えよう(社会部主催)

日時：4月27日(土)10:30～12:30
場所：東美教会
講師：鐘ヶ江晴彦さん(三鷹教会員)
問い合わせ：稻垣裕一牧師
TEL 03-3332-9661(3月中)
TEL 042-341-0387(4月～)

◆CS子ども大会(教育部主催)

日時：4月29日(月)
場所：東京神学大学
問い合わせ：吉岡喜人牧師(前出)



立川からしだね伝道所 開設式 次第

2013年1月20日(日)午後
司式：真壁 嶽教区副議長(相愛教会)
説教：大村 栄教区議長(阿佐ヶ谷教会)
奏楽：法島 太郎兄(杉並教会)

前 奏

讃美歌 99(主イエスよ、我らの)

聖 書 マタイによる福音書13:31～35

祈 祷

伝道所開設の経過報告 道家紀一開拓伝道実行委員長

主任(代務)者就任式

大村 栄教区議長

伝道所開設の宣言

開設の祈祷

説 教 「からしだねの信仰」 大村 栄教区議長

讃美歌 199(ひとつぶのからし種のよう)

祝 辞

石橋秀雄教団総会議長

長崎哲夫教団総幹事

献 金

祈 祷

頌 荣 28(み栄えあれや)

祝 福



教会往来

立川からしだね伝道所

1月20日、開設式と主任担任教師代務者就任式が行われました。8ページの報告をご覧ください。

編集後記

2013年春号の「教区だより」をお届けします。今年度は教区の三本柱の一つ「伝道」に焦点を当てて編集してきました。教区が主体となる開拓伝道も進められていますが、何よりもそれぞれの町に立っている各個教会がしっかりと伝道、宣教の働きを進めていかなければなりません。今回は伝道ツールとしてのインターネットを取り上げました。少し大きめかも知れませんが、各個教会の働きに参与する教区報でありたいと願っています。

(M・S)

2013年春(42号)

2013年3月20日発行

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南5-14-9

日本基督教団 西東京教区

発行人 大村 栄

(TEL) 03-5305-3991

(FAX) 03-5305-4823

uccj-nishitokyo@jcom.home.ne.jp

<http://www.uccj-wt.org/>

編集 教区報編集委員会 坂下道朗(長)/野田沢/五十嵐成見/中川功/西村佳子/